

**年次報告  
2012**

**特定非營利活動法人  
SEEDS Asia**



## **SEEDS Asia (シーズアジア)とは？**

SEEDS Asia はアジア太平洋地域において、環境問題の改善や防災ならびに災害救援に関する事業を行い、これらの事業を通して、社会全体の持続可能な発展や人間の安全保障の確保に寄与することを目的としています。

### **組織の特徴**

- 防災、環境、開発分野の若い専門家集団です。国籍もさまざまです。
- 学際的なアプローチで防災や環境問題にとりこんでいます。
- アツいところとクールなあたまで活動しています。
- アジア太平洋地域に特化した活動をしています。
- 神戸を拠点にしていますが、多文化な環境で仕事に取り組んでいます。
- 現地の社会経済状況、文化、政治的背景に配慮することを心がけています。
- 地元の知恵や知識・ノウハウを最大限利用し、地域にあった解決策を模索します。
- 現地カウンターパートと強い人間的ネットワークと相互信頼を築きます。
- 問題の発見とその解決策は当事者である地元の人々主導でおこないます。
- 研究、教育、プロジェクト実施が相乗効果的につながることをめざしています。
- 持続的で革新的なアプローチを取り入れています。

### **活動分野**

- コミュニティベースの災害リスク管理
- 防災と環境教育
- コミュニティベースの気候変動への適応
- 都市のリスク問題: 環境管理や防災（廃棄物管理、水資源管理）
- 人間の安全保障と持続可能な開発
- 貧困削減と防災
- 災害と環境管理に関する研究と政策対話

### **活動実施体制**

SEEDS Asia では理事会が団体の方針や事業計画を策定し、必要に応じて顧問から事業に関するアドバイスを受けています。そして、事業計画に基づき、事務局が事業を実施しています。2013年3月末時点で、神戸の事務局本部の他に、ベトナム、ミャンマー、宮城県気仙沼市にプロジェクト事務所を設置し、日本人スタッフがローカルスタッフとともに事業を実施しています。



## もくじ

### 1. 2012年の主な活動報告

① 人材育成事業 .....	3
② 研修事業 .....	9
③ 調査研究事業 .....	12
④ 知識の普及事業 .....	13
⑤ その他の事業 .....	14

## 1. 2012年の主な活動

### ① 人材育成事業

<b>プロジェクト名</b>	<b>ミャンマー 移動式防災教室を用いた防災教育事業(第2年次)</b>
<b>場所</b>	ミャンマー、ヤンゴン管区、エヤワティ管区、ラカイン州
<b>期間</b>	2012年3月～2013年2月
<b>カウンターパート</b>	ミャンマー工学会
<b>助成団体</b>	外務省 日本 NGO 連携無償資金協力事業
<b>受益対象者</b>	被災対象地域の教員、生徒、住民、技術者、防災関連団体職員等

今年度は、ヤンゴン、ラカイン、バゴの教員養成校にて、「移動式防災教室」を用いた防災トレーニングを実施しました。教員養成校教員、教員養成校所属の生徒、付属学校生徒、および学校周辺住民、計 1,696 人がトレーニングに参加し、トレーニング前には正解率平均が 7 割程度だった防災テストもトレーニング実施後は 9 割以上になるなど、トレーニングの成果がはっきりと表れました。また、防災トレーニングを受けた各学校で、避難マップを作成し、参加者に共有されました。参加者の教員は「以前、洪水が起こったとき、どうすればよいか分からなかった。でも、研修を受けたおかげで、緊急時に安全な場所に避難する大切さがあった。家族だけでなく、地域の人々も助けられます」と感想を言ってくれました。

また、ネピドーとヤンゴンにて、東日本大震災の経験から学ぶ「地震・津波シンポジウム」を開催し、政府関係者、現地で活動する国際機関や NGO の代表者等、170 名が参加しました。日本からは、専門家 4 名(気仙沼市教育委員会、JICA、国土交通省、弊団体理事長)を招聘し、東北での教訓の共有を通して、ミャンマーの防災事業、特に防災教育の推進についての話し合いがもたれました。シンポジウム開催には、ヤマサ醤油株式会社様より一部ご支援頂きました。



2012年6月に実施されたパネルディスカッションでは、参加者から防災教育に対する意見や講演者への質問が相次ぎました。



新しく開発した火災カードゲーム

<b>プロジェクト名</b>	<b>ミャンマーのデルタ地帯における防災教育能力向上支援事業</b>
<b>場所</b>	ミャンマー、ヤンゴン管区、エヤワティ管区
<b>期間</b>	2012年7月～2013年2月
<b>カウンターパート</b>	ミャンマー工学会
<b>現地パートナー</b>	ユネスコミャンマー事務所
<b>助成団体</b>	文科省 政府開発援助ユネスコ活動費補助金
<b>受益対象者</b>	学校教員、地域住民、学校生徒

本事業の目的は災害リスクの高い地域における防災教育の能力向上支援により、学校やコミュニティにおいて防災対応能力の高い人材を育成し、持続可能な社会の形成を目指すものです。ユネスコに協力し、ユネスコの防災教材「リソースパック：RP」(学校掲示用の防災ポスターや防災教育教材の使い方を説明するもの)を活用した学校教員への研修の実施に加え、RP研修後のフォローアップとして学校関係者やコミュニティを対象に移動式防災教室を使った防災トレーニング実施しました(デルタ地帯の4タウンシップエリアのワケマ、マウビン、ミョウンミヤ、セイッチーカナウト)。また、持続発展教育としての防災教育に関する冊子も作成しました。RPに関する研修では906名の教員が参加し、移動式防災教室には教員、生徒を合わせて1497名が参加しました。知識の確認を行った研修後のアンケートでは、「研修により防災能力が向上した」と答えた人が97.3%にのほみました。



リソースパックの活用方法を熱心に聞く教員

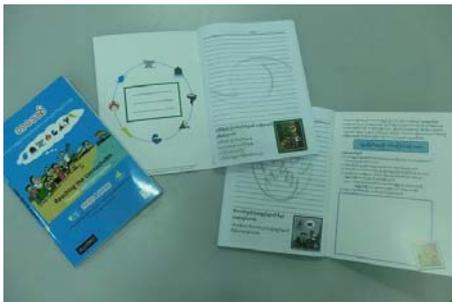


タウンウォーキングで危険な箇所を記した安全マップを作成



<b>プロジェクト名</b>	<b>「防災学習ノート」による自立的な防災行動推進プロジェクト</b>
<b>場所</b>	ミャンマー、ヤンゴン地域、エヤワティ地域、バゴー地域、ラカイン州
<b>期間</b>	2012年11月～2013年3月
<b>カウンターパート</b>	ミャンマー工学会
<b>助成団体</b>	フェリシモ地球村の基金
<b>受益対象者</b>	学校教員、地域住民、学校生徒

ミャンマーでは移動式防災教室を用いた防災教育活動を実施した経験より、これまで日常的に防災意識を高めるツールを開発することが望まれてきました。本プロジェクトでは、子どもから大人まで身近に使用するノートに防災コンテンツを加えた「防災学習ノート」を開発し、トレーニング受講者を中心に配布しました。「防災学習ノート」では、(ノートの)使用者が防災意識を持続させ、行動に結びつけること、家族や友人と一緒に防災に関するコミュニケーションのきっかけづくりになることを目的としています。人気漫画キャラクター「トッピー」起用し、親しみやすく楽しみながら学べるものになりました。



配布された防災ノート



内容を見て学ぶ生徒

### 災害リスクセミナー

<b>場所</b>	ミャンマー、ヤンゴン
<b>期間</b>	2013年3月11日



SEEDS Asia は、2013年3月11日、ヤンゴン日本商工会の協賛と、ヤンゴン日本人会のご後援により、ミャンマー災害リスクセミナーを開催しました。東日本大震災の犠牲となられた方々への追悼後、各専門家からミャンマーの気象・地理的リスクについて講義、災害リスクや国家の防災計画

に関する情報提供と各社の事業継続計画の必要性が述べられました。



東日本大震災 被災者支援事業	
場所	宮城県気仙沼市
期間	2011年6月～2014年4月
カウンターパート	気仙沼復興協会(KRA)、気仙沼市教育委員会
助成団体	チャーチ・ワールドサービス・アジア・パシフィック
受益対象者	被災対象地域の住民、対象学校教員、生徒等

2012年度には、気仙沼市教育委員会により任命された10名の教育研究員が実施した震災の経験を踏まえた防災教育のレッスンプランに関する研究開発に協力しました。その一環として、8月に教育研究員を対象に愛媛県西条市での防災の取り組みを視察研修を実施しました。また、学校交流事業として、昨年度に引き続き8月には舞子高校生が気仙沼市を訪問して行う被災地での交流活動を支援しました。9月には、被災したコミュニティの復興を支援する目的で、南気仙沼地域に位置する一景島神社の復興祭の実施に協力しました。来場者に南気仙沼のまちへの思いや復興への期待をメッセージにもらい、それをタイムカプセルに入れて数年後の本宮建設の際に掘り起こすことにしました。また、9月から11月まで、条南中学校の「総合学習の時間」で実施したボランティア活動と演劇づくりに関する授業をサポートしました。演劇では短い時間の中「今、伝えたいこと、想いがある」というタイトルのもと、生徒が台本を考え、中世から現代まで亡者達が「生と死」を問いかけてくる演劇を作成し、文化祭で保護者や学区内にお住まいの方々の前で演じました。

2013年1月には、学校交流事業として、気仙沼の中学生を神戸に招待し、阪神・淡路大震災のメモリアルイベントに参加したり、震災の経験を学ぶプログラムを実施しました。メモリアルに参加した様子は神戸の地元新聞にも取り上げられました。3月には、気仙沼市唐桑地域で継承されている郷土芸能、崎浜大漁唄込の舞台に、地域内の子どもが参加するコミュニティ演劇を組み合わせる活動を行うことで、コミュニティ活動の再興を支援しました。

※本事業には、富士ゼロックス様よりプリンター複合機の貸与をご支援頂いています。



1. 17阪神・淡路大震災式典にてろうそくをともす中学生



崎浜大漁唄込とコミュニティ演劇



<b>プロジェクト名</b>	<b>ベトナム中部の学校を中心としたコミュニティ防災力の向上支援 (第2フェーズ)</b>
<b>場所</b>	ベトナム中部ダナン市
<b>期間</b>	2011年9月～2013年9月
<b>カウンターパート</b>	ダナン市教育訓練省
<b>助成団体</b>	国際協力機構(JICA)草の根パートナーシップ事業
<b>受益対象者</b>	対象学校の教員、生徒、コミュニティ住民

今年度は、防災拠点学校の整備と拠点学校の先生たちへの教員研修、そしてその後の防災授業を実施しました。防災拠点学校選定審査は、ダナン市教育訓練局(DOET)とともにを行い、その結果7つの学校を選定しました。2012年7月から、防災拠点学校にて、数回に分けて防災授業を実施するための教員研修を行いました。防災や防災教育の必要性についての基本的な研修にはじまり、街や学校の危険箇所をみつけ地図を作成するタウンウォッチングや、災害のメカニズムについての学習、災害を題材とした描画、防災教室の計画づくりなど、授業の中でどのような形で防災を取り入れているかの研修です。そして教員研修実施後の10月より、防災研修を受講した教員による防災教室を実施しました。11月上旬にはダナン市教育訓練局(DOET)と協働で「災害模型と教材コンテスト」を行い、防災拠点学校の教員による災害模型、教材など20点が出典されました。力作が集まり、DOET職員が採点に苦勞していました。また拠点学校の先生たちが他の学校が作成した模型や教材からいろいろなアイデアを学ぶなど、嬉しい波及効果もありました。各防災拠点学校には、教員が作成した防災模型に加え、5種の災害(台風、洪水、地滑り、地震、津波)に関する防災模型、副教材、防災ハンドブックを設置し教員や生徒が活用します。尚、教員が防災研修で使用するための防災教育モジュールの開発を進めているほか、拠点学校以外の小中学校に対しても今後防災研修を実施していきます。



チャンビンチョン小学校がコンテストに出展した災害模型



シタントン中学校での防災クラス



<b>移動式防災教室事業</b>	
場所	ミャンマー、エヤワティ管区
災害	2008年 サイクロン ナルギス
期間	2011年1月～2012年6月
カウンターパート	ミャンマー工学会
助成団体	チャーチ・ワールド・サービス アジア・パシフィック
受益対象者	被災対象地域の教員、生徒、住民等



外部評価報告書

2011年から実施された、陸上、水上移動式防災教室の、モニタリング評価を実施しました。外部の専門家に依頼し、防災研修を実施した村を再訪し事後評価調査を行いました。評価報告の結果については「外部評価報告書」として英語および日本語で冊子にまとめました。評価では、短期間での防災トレーニングにもかかわらず、数か月の時間を経ても知識がきちんと残っていることや、緊急持ち出し袋の準備など、実際の行動につながっている例も報告され、防災教育の重要性と必要性を改めて認識することができました。

<b>パキスタン 移動式防災教室事業</b>	
場所	パキスタン タッタ州
災害	2010年 洪水
期間	2011年5月～2012年4月
カウンターパート	チャーチ・ワールド・サービス アフガニスタン・パキスタン
助成団体	チャーチ・ワールド・サービス アフガニスタン・パキスタン
受益対象者	被災対象地域の住民、対象学校教員、生徒等



トレーニングに参加し、熱心に学ぶ子どもたち

パキスタン南部タッタ州におけるトラック型陸上移動式防災教室事業は、2012年4月に終了しました。合計1,063名の教員、住民、大工、生徒が防災研修を受講し、研修終了後のアンケートでは、受講した生徒の84%、教員の92%が防災についての知識が向上したことが確認できました。



## ② 研修事業

<b>プロジェクト名</b>	<b>JICA 集団研修:防災意識の啓発(B)</b>
<b>場所</b>	京都、愛媛、神戸
<b>期間</b>	2012年7月30日～8月10日
<b>カウンターパート</b>	なし
<b>助成団体</b>	国際協力機構(JICA)業務委託研修
<b>受益対象者</b>	ベトナム教育訓練局

2012年7月30日から8月10日にかけて、ベトナム、ハノイ教育訓練省、ハーティン省、ゲアン省、クアンビン省およびダナン市の教育訓練居局代表者を対象に防災教育に関する本邦研修を実施しました。各省局より局長あるいは副局長1名が研修員として参加しました。ベトナムは毎年自然災害による被害が発生しており、中部ベトナムも台風・洪水の被害を受け易い地域の一つです。研修では神戸市内の自治体、教育委員会、研究機関や小学校での取り組み、愛媛県西条市では市長表敬をはじめ同市で推進する12歳教育に携わる教員との意見交換を通じて、学校での防災教育の重要性を改めて認識できました。最終日にはベトナムにおける防災教育実施のための行動計画（アクションプラン）を作成、発表しました。研修員は熱心な姿勢で研修に参加し、具体的な質問をするなど有意義なものとなりました。



耐震建築モデルで学ぶベトナムからの  
本邦研修参加者たち



研修最後の集合写真

<b>プロジェクト名</b>	<b>ミャンマー 防災教育研修事業</b>
<b>場所</b>	<b>東京、東北、神戸</b>
<b>期間</b>	<b>2012年10月20日～11月2日</b>
<b>カウンターパート</b>	<b>なし</b>
<b>助成団体</b>	<b>チャーチ・ワールド・サービス アジア・パシフィック</b>
<b>受益対象者</b>	<b>社会福祉救済復興局、ミャンマー工学会代表</b>

2012年10月20日から11月2日にかけて、ミャンマー防災担当省庁・機関向け本邦視察研修を実施しました。ミャンマー社会福祉救済復興局より1名、ミャンマー工学会より1名、ミャンマー地震委員会より2名、SEEDS Asia 現地スタッフ1名の合計5名が参加しました。研修の目的は、1) 学校とコミュニティとの連携による防災教育や持続発展教育(ESD)について理解すること、2) 東日本大震災や阪神・淡路大震災から得た教訓をもとに、学校や地域コミュニティにおける防災教育の役割を学ぶというものです。東京にて文部科学省を訪問し日本の防災教育施策について講義を受けた後、東北に向け、東日本大震災の被災地を視察しました。その後輪中地域(岐阜県南部と三重県北部、愛知県西部の木曾三川とその支流域に存在した堤防で囲まれた構造)の視察、神戸や京都にて防災関係施設を訪問し、防災研修を受講しました。研修員達はミャンマーでも災害に強いコミュニティづくりのためより一層の努力することを明言していました。



文部科学省より、日本における防災教育について講習を受け、質問をするミャンマー社会福祉救済復興局副局長



SEEDS Asia東北スタッフとKRAスタッフより気仙沼の被災状況について説明を受ける視察メンバー



<b>プロジェクト名</b>	<b>JICA 有償勘定技術支援研修「コミュニティ防災」</b>
<b>場所</b>	<b>兵庫県佐用町、滋賀県、神戸市など</b>
<b>期間</b>	<b>2012年12月3日～7日</b>
<b>カウンターパート</b>	<b>なし</b>
<b>助成団体</b>	<b>JICA 研修</b>
<b>受益対象者</b>	<b>ベトナム研修員</b>

2012年12月3日から12月7日にかけて、「コミュニティ防災」本邦研修が実施されました。ベトナムから農業農村開発省の幹部3名、資源環境省の幹部3名の合計6名を日本に招聘し、神戸市、兵庫県佐用町や滋賀県琵琶湖などでコミュニティ防災研修を実施しました。研修の目的は、洪水が多発するベトナムでの総合洪水管理能力向上のため、日本の事例を参考に、ベトナムでのコミュニティ防災活動を計画してもらうことです。研修最終日には、想定外の災害に対応できるよう、省庁横断的な防災対策のアプローチを計画することや、コミュニティ防災構築に向け、各省庁との連携を強化することなどが発表されました。



六甲砂防事務所で講義を聞く研修員



歴史的街並みと調和した  
佐用町平福地区の消防団施設

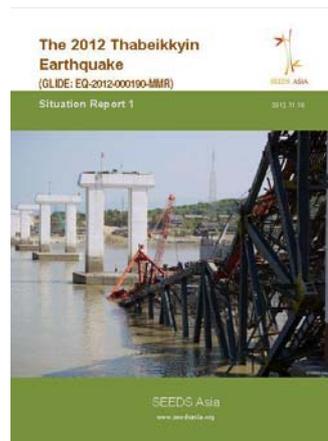
### ③ 調査研究事業

プロジェクト名	ミャンマー地震委員会との協働被災地調査
場所	ミャンマー中部
期間	2012年11月12日～15日

11月11日午前7時42分、ミャンマー中部にてマグニチュード6.8の地震が発生し、18名が死亡、116名が負傷しました。SEEDS Asiaではミャンマー工学会及びミャンマー地震委員会と共に、12日から15日まで被災地を訪問し、建設省公共事業庁の協力を得、被害状況や住民のニーズ調査を行いました。住民への聞き取りから、当該地域の地震リスクに関する情報を得る機会がなく、地震への備えや耐震建設に関する知識が明らかに不足していたことが分かりました。調査内容については報告書にまとめ、Relief Web や Facebook を通じて発信しました。調査後、ミャンマー地震のハザードマップや地震のメカニズムを説明した防災ポスターなどを被災者に届けました。



クシ村で倒壊した小学校



ミャンマー中部地震調査報告書



#### ④ 知識の普及事業

<b>プロジェクト名</b>	<b>JICA 人材セミナーブース出典</b>
<b>場所</b>	JICA 関西
<b>期間</b>	<b>2012年11月3日</b>



ブースにて、セミナー参加者に活動紹介

2012年11月2日に JICA 関西で実施された「国際協力人材セミナーin 関西」にブース出典しました。NGO や国際協力期間への就職を希望する参加者からのプロジェクトに関する質問に答えました。

<b>プロジェクト名</b>	<b>防災イベント「イザ！カエル大キャラバン」参加</b>
<b>場所</b>	JICA 関西
<b>期間</b>	<b>2013年1月27日</b>



自分の部屋を作る子供たち

2013年1月27日に JICA 関西で開催された 防災イベント「イザ！カエル大キャラバン」に出展しました。SEEDS Asiaは今年も「親子で学ぼう地震で変わるお部屋の安全」のプログラムを実施し、多くの子どもたちと、その保護者の方々に防災ワークショップを体験してもらいました。

<b>プロジェクト名</b>	<b>国際 NGO 広報イベント「ワン・ワールドフェスティバル」参加</b>
<b>場所</b>	大阪国際交流センター
<b>期間</b>	<b>2013年2月2日～3日</b>



来場者に SEEDS Asia の活動紹介

2013年2月2日、3日、大阪国際交流センターで実施された「ワン・ワールド・フェスティバル」にブース出典しました。活動現場の写真や、プロジェクトで使用している防災教材を展示して、防災教育や環境保全の活動について紹介しました。



<b>プロジェクト名</b>	<b>世界防災関係会議 in 東北サイドイベント</b>
<b>場所</b>	<b>仙台市</b>
<b>期間</b>	<b>2012年 7月3日～ 4日</b>



東日本大震災など大規模災害の教訓の共有、並びに災害に強い社会づくりに向けての課題やポスト兵庫行動枠組みに向けた議論を目的として、7月3日及び4日に、世界防災関係会議が東北各地で開催され、仙台市にて行われたサイドイベントに活動紹介ブースを出展しました。当日は、日本政府関係者を始め、国際機関、大学関係者、NGO関係者など多くの来訪者がありました。

## ⑤ その他の事業

### 広報活動

<b>場所</b>	<b>SEEDS Asia 事務所</b>
<b>期間</b>	<b>2012年 4月～2013年 3月</b>

より多くの方に SEEDS Asia の活動を知ってもらい、支援していただくために、ホームページのリニューアル、フェイスブックの発信、プロジェクト各地からのブログ、ニュースレター発行等の広報活動を実施しました。



## ニュースレター

# 活動計算書

特定非営利活動法人SEEDS ASIA

(単位：円)

自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日

I 経常収益の部			
1	受取会費	70,000	
2	受取寄付金	538,000	
3	受取助成金等	48,146,695	
4	事業収益	19,956,109	
5	その他収益		
	受取利息収入	5,292	
	為替差益	231,373	
	雑収入	202,990	
	経常収入合計		69,150,459
II 経常費用の部			
1	事業費		
(1)	人件費		
	給与手当	26,286,321	
	法定福利費	2,965,134	
	福利厚生費	28,826	
(2)	その他経費		
	外注費	123,825	
	調査費	600	
	旅費出張費	10,485,366	
	会議費	12,009	
	消耗品費	792,663	
	通信費	1,165,384	
	業務委託費	717,429	
	支払手数料	1,066,755	
	図書資料費	45,505	
	トレーニング費	5,033,950	
	印刷費	140,387	
	現地事業費	16,208,641	
	現地賃借費	1,817,405	
	水道光熱費	167,312	
	為替差損	31,787	
	雑費	44,610	
	事業費合計		67,133,909
2	管理費		
(1)	その他経費		
	水道光熱費	95,773	
	地代家賃	816,000	
	保険料	12,490	
	租税公課	7,420	
	リース料	122,220	
	諸会費	100,000	
	管理費合計		1,153,903
	経常費用合計		68,287,812
	当期経常増減額		862,647
	当期正味財産増加額		862,647
	前期繰越正味財産額		631,319
	当期正味財産合計		1,493,966

# 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

特定非営利活動法人 SEEDS ASIA  
 全社

(単位：円)

平成25年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
(現金・預金)		未払金	2,923,308
現金	61,457	前受金	10,046,061
普通預金	13,944,545	短期借入金	1,000,000
現金・預金計	14,006,002	預り金	94,720
(売上債権)		流動負債計	14,064,089
未収金	60,000	<b>負債の部合計</b>	<b>14,064,089</b>
売上債権計	60,000		
(その他流動資産)		<b>正味財産の部</b>	
前払費用	1,076,053	<b>【正味財産】</b>	
その他流動資産計	1,076,053	正味財産	1,493,966
流動資産合計	15,142,055	(うち当期正味財産増加額)	862,647
<b>【固定資産】</b>		正味財産計	1,493,966
(投資その他の資産)		<b>正味財産の部合計</b>	<b>1,493,966</b>
保証金	50,000		
敷金	116,000		
投資その他の資産計	166,000		
固定資産合計	166,000		
<b>【繰延資産】</b>			
繰延資産	250,000		
繰延資産計	250,000		
<b>資産の部合計</b>	<b>15,558,055</b>	<b>負債・正味財産の部合計</b>	<b>15,558,055</b>

## **SEEDS Asia 事務局**

**〒658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本2-11-21-401**

**Tel: 078-766-9412**

**Fax: 078-766-9413**

**Email: [rep@seedsasia.org](mailto:rep@seedsasia.org)**

**Website: <http://www.seedsasia.org>**

**Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>**